



神奈川県

教育委員会

平成 27 年度 小学校・中学校における

手話に関する 取組事例集

平成 27 年 12 月

神奈川県教育委員会教育局

支援部子ども教育支援課

はじめに

平成 27 年 4 月 1 日に神奈川県手話言語条例が施行されました。

この条例は、ろう者とろう者以外の者が、お互いの人権を尊重して意思疎通を行いながら共生することのできる地域社会を実現するため、手話の普及等に関する基本理念を定め、県の責務や県民、事業者の役割を明らかにし、並びに手話の普及に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るために定められています。そして、県の責務としての手話の普及並びに、手話に関する教育及び学習の振興等を行い、手話を使用しやすい環境を整備すること、また、県民の役割として、手話に対する理解を深めるよう、努めることが求められています。

こうした状況を踏まえ、県教育委員会や各学校において、手話を身近なものとし、全ての児童・生徒や教職員が手話に興味・関心を持ち、手話に対する理解を深める取組を充実させていく必要があります。

本事例集は、平成 26 年度の取組を中心に資料を提供していただいた学校の協力の基に作成しております。これまでも多くの学校が授業等において、様々な活動をとおして手話に取り組む機会を設けております。

今後、本事例集を参考に、各学校の実態に応じて手話に関する積極的な取組を検討くださるようお願いいたします。

県内市町村の実践事例集 目次

<国語>

◇小学校

- ・手と心で読む(相模原市立鳥屋小学校)1
- ・だれもが関わり合えるように(相模原市立藤野南小学校)2
- ・だれもがかかわり合えるように(横須賀市立長井小学校)3
- ・調べて発表しよう(寒川町立一之宮小学校)4
- ・だれもが関わり合えるように(中井町立井ノ口小学校)5

<生活科>

◇小学校

- ・楽しかったね1年間(相模原市立大野台小学校)6

<音楽>

◇小学校

- ・手話を取り入れた校歌指導(川崎市立大戸小学校)7
- ・ちいさな せかい(中井町立井ノ口小学校)8
- ・赤いやねの家(小田原市立芦子小学校)9
- ・「青い空に絵を描こう」「さんぽ」「世界に一つだけの花」(横須賀市立桜小学校).....10
- ・「世界で一つだけの花」を手話で歌おう(逗子市立逗子小学校).....11
- ・さんぽ(秦野市立東小学校)12
- ・校歌を手話で歌おう(横浜市立西寺尾第二小学校)13

<体育>

◇小学校

- ・手話ダンスに親しもう(平塚市立崇善小学校)14

<英語>

◇中学校

- ・チャンツ・本文理解(厚木市立南毛利中学校)15
- ・手話に対する理解を深めよう(小田原市立千代中学校)16

<総合的な学習の時間>

◇小学校

- ・わたしたちの住みよい街よこすか(横須賀市立桜小学校)17
- ・手話を学ぼう(海老名市立大谷小学校)18
- ・やさしいまち 下平間(川崎市立下平間小学校)19
- ・スマイルプロジェクト(横須賀市立衣笠小学校)20
- ・福祉について考えよう(小田原市立芦子小学校)21
- ・手話ではなそう!(川崎市立古市場小学校)22

◇中学校

- ・手話コーラス(横浜市立芹が谷中学校)23
- ・手話講座(茅ヶ崎市立松浪中学校)24
- ・福祉体験(二宮町立二宮中学校)25
- ・福祉体験(相模原市立緑が丘中学校)26
- ・福祉体験(横須賀市立野比中学校)27
- ・福祉体験(座間市立相模中学校)28
- ・福祉体験(川崎市立枳形中学校)29
- ・福祉体験学習(藤沢市立湘洋中学校)30
- ・福祉体験(山北町立山北中学校)31

<特別活動>

◇小学校

- ・手話で歌おう、心を込めて(大和市立緑野小学校)32
- ・人権週間の取組(横浜市立洋光台第一小学校)33

◇中学校

- ・福祉実践教室 手話学習(横浜市立市場中学校)34
- ・福祉体験(平塚市立太洋中学校)35・36

<p>国語 「手と心で読む」</p>	<p>相模原市立鳥屋小学校</p>
<p>単元（題材）目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関心のあることからなどから話題を決め、必要なことを調べて要点をメモすることができる。 ・ 相手や目的に応じ、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、話し方の工夫を考えて話すことができる。 <p>（１）実施時期 9月中旬</p> <p>（２）対象（学年等・人数） 4学年 11人</p> <p>（３）指導者（教諭・外部講師等） 本校教諭：4年担任</p> <p>（４）実施内容 単元の学習の終末で、発展学習としての扱い 学習課題「人と関わり合うための工夫に、他にどんなものがあるか考えよう」 活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 聴覚障害がある方はどんな方法で伝え合っているか考える。（手話、筆談、身振り手振り） ・ 「ありがとう」「ごめんなさい」等の挨拶を手話で体験する。 ・ 手話体験で気づいたことを伝え合う。 <p>（５）成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 視覚障害者について教材文から学んだ後に、聴覚障害者について考えたことで、点字や手話を通して様々な立場の人と関わり合うことができるという理解が深まった。 ・ 授業で学んだ手話だけでなく、他の挨拶を手話で覚え、友だちどうしで教え合うなどの意欲が高まった。 	

<p>国語 「だれもがかかわり合えるように」</p>	<p>相模原市立藤野南小学校</p>
<p>単元（題材）目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章を読んで、関わり合いについて考え、課題について進んで調べようとしたり友達に分かるように発表したりできる。 <p>（１）実施時期 9月上旬</p> <p>（２）対象（学年等・人数） 4学年 11人</p> <p>（３）指導者（教諭・外部講師等） 本校教諭：4年担任</p> <p>（４）実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料「手と心で読む」を読み、学習課題を設定する。 学習課題に聴覚障害がある方との関わりをもつための方法として、手話について調べる。 <p>＜例＞自分の名前を指文字で表す。 「私の名前は〇〇〇〇です。好きなスポーツは〇〇です。」など</p> <p>（５）成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 指文字表を学級に掲示しておくことで、自分の名前を指文字で表そうとする児童が増えて、手話に関心をもつことができた。 手話には指文字や手話単語などがあり、それを知ることで関わりをもつきっかけにもなることを理解できた。 この学習をきっかけにして、先輩達が取り組んだ「校歌を手話で歌ってみよう」にチャレンジすることになった。 <p>（６）その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校校歌「新しい風がふくよ」を手話にした資料は、今後も活用していきたい。 	

国語 「だれもがかかわり合えるように」	横須賀市立長井小学校
<p>単元（題材）目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝え合い、分かり合うにはいろいろな方法があることに気付き、調べたり、まとめたりしたものを聞き手に分かりやすく伝えること。これに関連させ、福祉にも同時に興味をもたせ、だれもがかかわり合える手段についての調べ学習に発展させる。 <p>（１）実施時期 7月中旬</p> <p>（２）対象（学年等・人数） 4学年 73名</p> <p>（３）指導者（教諭・外部講師等） 本校教諭：学級担任</p> <p>（４）実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・だれもがよりよくかかわり合うために、様々な手段があることを学んだことをきっかけに、かかわり合いの手段や工夫について、インターネット等を活用し、更に詳しくグループに分かれ調べた。 ・そのグループの1つが、耳が不自由な方の伝達手段の1つである手話について調べ、クラス全体への発表を行った。 <p>（５）成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障害がある人とも、かかわりあえる手段があることを学び、福祉全体に対し、自分の考えを広げたり、深めたりすることができた。 	

国語 「調べて発表しよう」	寒川町立一之宮小学校
<p>単元（題材）目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関心のあることから話題を決め、必要なことを調べて要点をメモすることができる。 ・ 相手や目的に応じ、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、話し方の工夫を考えて話すことができる。 ・ 話の中心に気をつけて聞き、質問をしたり感想を述べたりすることができる。 <p>（１）実施時期 9月下旬</p> <p>（２）対象（学年等・人数） 4学年 64名</p> <p>（３）指導者（教諭・外部講師等） 本校教諭</p> <p>（４）実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書の資料「手と心で読む」（点字について）を読み、学習計画を立てる。 ・ だれもがよりよく関わり合うための他のコミュニケーション手段について話し合う。（手話など） ・ 手話などについての自分の課題を設定し、調査計画を立て調べる。 ・ 調べたことを分類・整理して、発表原稿を書く。 ・ 発表を聞き合い、意見や感想を交流する。 <p>（５）成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手話について調べた児童は発表の中で簡単な手話をいくつか他の児童に教えていた。 <p>（６）その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 総合的な学習の時間に、福祉について学習をした中で、手話サークルの方にも来ていただき、お話を聞いたり、手話を習ったりした。 	

<p>国語 「だれもがかかわり合えるように」</p>	<p>中井町立井ノ口小学校</p>
<p>単元（題材）目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べたことを整理して発表しよう。 <p>（１）実施時期 9月中旬～10月上旬</p> <p>（２）対象（学年等・人数） 4年生 40名</p> <p>（３）指導者（教諭・外部講師等） 本校教諭：担任</p> <p>（４）実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「だれもが関わり合えるように」というテーマで自分の身の回りを見直し、課題を見出す。発見した課題について調べ、整理してわかりやすく発表する。 ・課題はグループ毎に設定するが、その中に手話を取り上げたグループがあり、手話について調べ（あいさつ、歌、会話など）発表する。 <p>（５）成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手話について興味関心が深まり、手話を解説した本を図書室から借りてくる児童がいた。また、あいさつを覚えようと友人どうしで練習する姿が見られた。現在取り組んでいる説明学習でも手話を取り上げ、家庭で保護者に実演する児童も見られた。また、総合的な学習の時間の福祉についての活動につなげることができた。 	

生活

「楽しかったね 1年間」

相模原市立大野台小学校

単元（題材）目標

- ・自分の成長を振り返り、できるようになったことがわかり、これからの成長への願いをもって意欲的に生活することができる。

（1）実施時期

2月～3月

（2）対象（学年等・人数）

1・2学年 185名

（3）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：1・2年担任

（4）実施内容

- ・新2年生が入学式で、新1年生に校歌を手話をしながら披露する。
- ・2年1組→1年1組 というようにペアの組を作り教える。

（5）成果

- ・校歌の意味を知ることができる。
手話にはそれぞれの動作に意味がある。それを確かめながら行うことで、歌詞の内容がしっかり理解できるようになる。
- ・進級に向けての意欲が高まる。
2年生は1年生に教えることで、先輩としての気持ちが高まる。1年生は、入学式で披露することで、昨年の入学式を思い出し、小学校生活が1年たったことを知る。
- ・伝統を受け継ぐ。
毎年入学式で行っていることなので、自校の校歌の内容を知り誇りに思う。

（6）その他

- ・異学年で交流することにより、上級生としての自覚や進級への希望が生まれた。

音楽 (手話を取り入れた校歌指導)	川崎市立大戸小学校
<p>単元（題材）目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手話を取り入れた校歌を歌うことを通して、他者理解の心を育てる。 <p>(1) 実施時期</p> <ul style="list-style-type: none"> ①通年 ②4月上旬 <p>(2) 対象（学年等・人数）</p> <ul style="list-style-type: none"> ①全学年 819名 ②1学年 123名 6学年 143名 <p>(3) 指導者（教諭・外部講師等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ①各担任 ②1年・6年の担任 <p>(4) 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校では、校歌に手話を入れて歌っている。朝会や集会の際には、冒頭に必ず校歌を歌う。その際、指導者が壇上で手話を入れて校歌を歌うと共に、列の先頭に担任が立って児童と一緒に手話を入れた校歌を歌っている。 ・1年生に校歌を教えるのは担任だけでなく、6年生の協力も得ている。朝の時間に兄弟クラスの児童が1年生のクラスに赴き、少しずつ時間をかけて手話を教える。その際、なかなか覚えられない1年生には6年生が付き添って個別に教えている。1年・6年の両担任は児童の情報交換をするなど連携して、児童の成長に資するよう支援している。4月の中旬に行われる1年生と他学年との対面式と一緒に校歌を歌う日を目指して全校児童が手話を入れて校歌が歌えるようにしている。 <p>(5) 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校には重複障害児童を対象とした中央支援学校の大戸分教室が設置されている。1年生から手話を入れた校歌を取り入れることにより、分教室の児童を受け入れる素地が醸成されると考えている。さらに通常級と分教室の児童との交流を通して思いやりの心が育っている。 <p>(6) その他</p>	

音楽 「ちいさな せかい」	中井町立井ノ口小学校
<p>単元（題材）目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ みんなでたのしく ・ ことばをたいせつにして、きもちをこめてうたおう。 <p>（１）実施時期 3月</p> <p>（２）対象（学年等・人数） 1学年 50名</p> <p>（３）指導者（教諭・外部講師等） 本校教諭：担任</p> <p>（４）実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校に入学し、この1年間自分たちが学校生活を送る中で、お世話になっている地域の方を学校に招き、感謝の気持ちを伝える「ありがとう集会」の中で手話を交えて歌を披露した。 <p>（５）成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体を使って会話する手話というコミュニケーションツールがあることを知ることができた。 ・ 自分の気持ちや考えを伝えるにあたって、身振りや手振りを交えることで、伝わりやすくなることを体感することができた。 	

音楽 「赤いやねの家」	小田原市立芦子小学校
<p>単元（題材）目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌ったり体を動かしたりしながら、歌を楽しむ。 ・歌詞の表す様子や気持ちを想像して、楽曲の気分にあった表現を工夫して歌う。 <p>（１）実施時期 11月～翌年入学式</p> <p>（２）対象 1年生 90名</p> <p>（３）指導者 本校教諭：担任</p> <p>（４）実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校の音楽タイムで歌う「赤い屋根の家」の歌詞の表す様子や気持ちを想像して歌う。 ・「赤い屋根の家」の歌詞に出てくる手話を覚える。 ・手話を取り入れながら「赤い屋根の家」の歌を楽しむ。 ・学習発表会で披露する。 ・入学する1年生をお迎えする言葉「はじめの一步」は、手話を交えて歌うことで2年生からの気持ちを伝える。 <p>（５）成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手話を交えて歌うことで、手話を楽しく覚えたり身近に感じたりすることができた。歌うだけでなく手話を交えることで体を動かし、歌を楽しむことができた。また、手話から歌詞の意味をさらに感じ取ることができた。そして、1年生に向けて歌うことで、さらに気持ちを込めた歌声になった。 	

<p>音楽（1学年） 「青い空に絵を描こう」「さんぽ」 「世界に一つだけの花」 総合的な学習の時間（3学年） 「わたしたちの住みよい街よこすか」</p>	<p>横須賀市立桜小学校</p>
<p>単元（題材）目標</p> <p>音楽 音楽を体全体で表現する。 総合 人・もの・ことに働きかけ、主体的に関わっていける子を育てる。</p> <p>（1）実施時期</p> <p>音楽 年間通じて 総合 11月</p> <p>（2）対象（学年等・人数）</p> <p>音楽 1学年 41名 総合 3学年 62名</p> <p>（3）指導者（教諭・外部講師等）</p> <p>音楽 本校教諭：1学年担任 総合 外部講師：ボランティアセンターの方 聴覚障害者の方</p> <p>（4）実施内容</p> <p>音楽 1年を通して、音楽の授業のなかで、少しずつ取り組んでいき、6年生の送る会で披露した。 総合 聴覚障害者の方とボランティアセンターの方を招いて手話の体験を行った。簡単な挨拶などを教わりながら、体験した。</p> <p>（5）成果</p> <p>音楽 動作化の1つとして取り入れ、子どもたちは楽しんで、音楽表現をしていた。 総合 簡単な挨拶ができるようになった。</p> <p>（6）その他</p>	

音楽 「『世界で一つだけの花』を手話で歌おう」	返子市立返子小学校
<p>単元（題材）目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害の有無にかかわらず、お互いに相手の立場を思いやり、温かい人間関係を築こうとする心を育てる。 <p>（１）実施時期 2月中旬～3月中旬</p> <p>（２）対象（学年等・人数） 2学年 140名</p> <p>（３）指導者（教諭・外部講師等） 本校教諭：2学年担任4名</p> <p>（４）実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「6年生を送る会」の学年の出し物の一環として実施した。 児童数が850名以上在籍する本校では、聴覚障害をもつ子どもや、声や音に過敏に反応する子どももいる。2年生では、卒業生はもちろん、在校生の中の多くの児童に、耳だけでなく目でも、この歌の歌詞の意味を伝えたいと思い、合唱に手話を取り入れた。 <p>（５）成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しい日本式手話を覚えるのは難しかったが、児童が手話を体感的に覚えられるよう振りを工夫しながら取り組んだ。 ・当日は6年生を含め、多くの子どもたちが2年生の歌を集中して聴き、また見てもらえたことで手話を学ぶきっかけにつながった。中には、この学習をとおしてさらにいろいろな手話を覚え、聴覚障害がある方々と会話をしたいという子どももいた。 	

音楽**「さんぽ」****秦野市立東小学校****単元（題材）目標**

- ・表現豊かに歌う。
- ・相手に伝わるように、はっきり大きく手話の動作をする。
- ・歌に動きを合わせる。

（１）実施時期

5月中旬

（２）対象（学年等・人数）

2学年 3学級 84人

（３）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭

（４）実施内容

「さんぽ」の歌と手話（教科書P64・65 音楽ランド、全校合唱）

- ・音楽の導入として、楽しみながら行った。
- ・手話を「拡大コピー」して張り出し、見やすくして取り組んだ。
- ・幼稚園の時や合唱団で「ビリーブ」を手話付きで歌ったことがある児童がいたので、「さんぽ」と共に手話をつけて歌った。

（５）成果

- ・手話をつけて歌うことで、より楽しく歌うことができた。
- ・歌に手話がついているので、無理なく手話に親しむことができた。
- ・4年での福祉の学習につながる。

（６）その他

- ・1番の歌詞しか手話がついていない。2番・3番の歌詞の手話もあるとさらに楽しく歌えるので、あるとよい。

（子どもたちは自主的に手話をつけて歌っていた。）

音楽

「校歌を手話で歌おう」

横浜市立西寺尾第二小学校

単元目標

- ・歌詞の表す情景や気持ちを想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりし、思いをもって歌うこと。

(1) 実施時期

11月～3月

(2) 対象（学年等・人数）

第4学年 100名

(3) 指導者（教諭・外部講師等）

第4学年担任教諭（3名）、音楽担当教諭（1名）

外部講師：「手話&ステップ」

(4) 実施内容

- ・手話であいさつ、日常会話を学ぶ。
- ・手話について（手話は言葉。伝えたい思いをもって「歌う」ことが大切。）
- ・手話で歌おう 「さんぽ」「小さな世界」「赤鼻のトナカイ」
- ・手話で歌おう 「ビリーブ」（2分の1成人式）
- ・手話で歌おう 「校歌」（卒業式）
「学校大好き」、「校歌大好き」の思いを伝えよう。

(5) 成果

児童の感想

- ・校歌を手話でも歌えるようになって、うれしい。
- ・歌詞の意味を考えながら歌うようになって、もっと校歌が好きになった。
- ・5年生・6年生と一緒に（卒業式で）歌うのが楽しみになった。
- ・下の学年にも教えたい。
- ・たくさんの方に見ていただきたい。いろいろな方に喜んでほしい。

(6) その他

- ・総合的な学習の時間と合わせ、『横浜の時間』として学習を行った。

単元（題材）目標

- ・手話を取り入れた歌とダンスを体験することを通して、手話に親しむと共に、手話の可能性について知る。
- ・誰とでも気持ちを合わせて楽しく踊ったり、互いのよいところを見付けたりして、仲良く運動することができる。

（１）実施時期

９月

（２）対象（学年等・人数）

５学年 118名

（３）指導者（教諭・外部講師等）

外部講師：手話パフォーマー

（４）実施内容

- ・外部講師による「星物語」の歌と手話ダンスのパフォーマンスを鑑賞する。
- ・各クラスに分かれて、講師から「星物語」の手話とダンスのレッスンを受ける。
歌詞を表す手話について一つ一つ丁寧な解説
手話ダンスの体験
- ・クラスごとに練習の成果をステージで発表する。
- ・最後に学年全員で輪になって踊る。

（５）成果

- ・テレビ等で手話を見かけると、関心をもって、見るようになった。
- ・辞典等で手話について調べるきっかけとなった。
- ・手話についてもっと学びたいと思った。
- ・手話を使うことで、聴覚障がいがある方も一緒に、音楽やダンスも楽しめることが分かった。
- ・手話ダンスは、体全身を使って手話に触れるよいチャンスとなり、子どもたちにとって、自分の思いを相手に伝える表現方法が広がるきっかけとなった。

英語 (チャンツ・本文理解)	厚木市立南毛利中学校
<p>単元（題材）目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の手話を見ながら、英語を日本語に訳さずに理解する。 ・教師の手話のジェスチャーを見て日本語に訳さず英語を言う。 <p>(1) 実施時期 通年</p> <p>(2) 対象（学年等・人数） 3学年 英語少人数 20人 2クラス</p> <p>(3) 指導者（教諭・外部講師等） 本校教諭：英語科</p> <p>(4) 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帯活動に毎授業で行うチャンツ。（5分から10分程度） 英文を見ずに、教師の手話を見てチャンツを言う。 教師の手話に合わせて生徒達も手話をしながらチャンツを言う。 ・単元ごとの本文理解。 本文の内容を教師が日本語に訳さず、手話で見たイメージだけで理解していく。 <p>(5) 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帯活動で毎時間行うので、チャンツの英語のイメージが付き易い。 ・英語活動に欠かせないジェスチャーのバリエーションが増える。 <p>(6) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際の日本語対应手話の語彙を見慣れることで、手話でのコミュニケーションの垣根を低くし、将来聴覚障害がある方に出合った時に、手話でコミュニケーションを取ろうとする若者を増やしたい。 	

英語 「手話に対する理解を深めよう」	小田原市立千代中学校
<p>単元（題材）目標</p> <p>単元名 Unit1 Sign Language (NEW HORIZON English Course3 東京書籍)</p> <p>単元目標 ・受け身の文の形・意味・用法を理解し、表現できる。</p> <p>・ make・名詞・形容詞を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現できる。</p> <p>・手話に対する理解を深め、積極的に使おうとすることができる。</p> <p>(1) 実施時期 4月下旬</p> <p>(2) 対象（学年等・人数） 3年生 177名</p> <p>(3) 指導者（教諭・外部講師等） 本校教諭</p> <p>(4) 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本単元は、聴覚障害がある方たちによる手話の劇を鑑賞した登場人物たちが、手話について興味を持ち手話教室に参加して交流をするという内容である。 ・授業の中で手話を使った「こんにちは」、「ありがとう」、「さようなら」、「はじめまして」などの簡単なあいさつの仕方を説明し、「あいうえお」などのひらがなも手話でどう表すのか説明した。また、本単元では日本と外国の手話の表現の違いも紹介されていたのであわせて学習した <p>(5) 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の中に自身が所属しているスポーツクラブのチームに聴覚に障がいのある仲間がいて、試合中やそれ以外の時にもコミュニケーションをとるために手話をするということができたという生徒がおり、その話を聞いたことで他の生徒は意欲的に手話の必要性を考えることができた。また聴覚障害だけでなく、様々な障害がある人たちが過ごしやすいような環境を作るために自分たちができることを考えるきっかけになったと思う。 	

<p>音楽（1学年） 「青い空に絵を描こう」「さんぽ」 「世界に一つだけの花」 総合的な学習の時間（3学年） 「わたしたちの住みよい街よこすか」</p>	<p>横須賀市立桜小学校</p>
<p>単元（題材）目標</p> <p>音楽 音楽を体全体で表現する。 総合 人・もの・ことに働きかけ、主体的に関わっていける子を育てる。</p> <p>（1）実施時期</p> <p>音楽 年間通じて 総合 11月</p> <p>（2）対象（学年等・人数）</p> <p>音楽 1学年 41名 総合 3学年 62名</p> <p>（3）指導者（教諭・外部講師等）</p> <p>音楽 本校教諭：1学年担任 総合 外部講師：ボランティアセンターの方 聴覚障害者の方</p> <p>（4）実施内容</p> <p>音楽 1年を通して、音楽の授業のなかで、少しずつ取り組んでいき、6年生の送る会で披露した。 総合 聴覚障害者の方とボランティアセンターの方を招いて手話の体験を行った。簡単な挨拶などを教わりながら、体験した。</p> <p>（5）成果</p> <p>音楽 動作化の1つとして取り入れ、子どもたちは楽しんで、音楽表現をしていた。 総合 簡単な挨拶ができるようになった。</p> <p>（6）その他</p>	

**総合的な学習の時間
「手話を学ぼう」**

海老名市立大谷小学校

単元（題材）目標

- ・聴覚障害がある方たちのことを考え、さまざまな人とともに行動することができるようにする。

（１）実施時期

9月

（２）対象（学年等・人数）

3年生 88名

（３）指導者（教諭・外部講師等）

外部講師：講師1名、通訳1名（海老名市社会福祉協議会 ふくし教室）

（４）実施内容

- ・聴覚障害がある方の日常について話を聞く。
- ・聴覚障害がある方とコミュニケーションをとる方法について知り、体験する。
口を大きく開けて、話す。
文字を書いて、伝える。
危険を伝える時は、肩をトントンと触れて、知らせる。
手ぶり、身ぶりで伝える。（ジェスチャーゲーム）
- ・手話をしながら「さんぽ」を歌い、手話に親しもうとする。

（５）成果

- ・聴覚障害がある方の立場を理解することができ、聴覚障害がある方が困っている時、自分たちのできることを実践しようとする気持ちを持つことができた。

（６）その他

- ・この時間以外にも音楽朝会で手話をしながら歌を歌い、年間を通して、全校で手話に親しむ活動に取り組んでいる。

総合的な学習の時間 「やさしいまち 下平間」	川崎市立下平間小学校
<p>単元（題材）目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者との交流から、耳が不自由なことはどういうことかを理解することができる。 ・ 耳が不自由なことを体験・調べ学習をする中で、障害者だけでなく、様々な立場の人たちのことを考え、行動しようとする心情を育てる。 <p>（１）実施時期 9月下旬</p> <p>（２）対象（学年等・人数） 4年生 88名</p> <p>（３）指導者（教諭・外部講師等） 本校教諭：4年担任4名 外部講師：手話サークル太陽の会 6名</p> <p>（４）実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 聴覚障害者の体験談を聞く。 ・ 手話の基本的な仕方を講師から直接指導。 ・ 手話の簡単なあいさつの仕方を講師から直接指導。 ・ 質問タイム <p>（５）成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手話であいさつができるようになった。 ・ 聴覚障害者の体験談を聞き、やさしい気持ちをもてるようになった。 <p>〈児童感想〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手話をたくさん覚えて、コミュニケーションをとりたいと思った。 ・ 身振りなどでも、気持ちを表現したいと思った。 ・ 手話や指文字をたくさん覚えてコミュニケーションをとりたい。 <p>（６）その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手話サークルの方と、事前の打ち合わせをしっかりと取る。 	

総合的な学習の時間 「スマイルプロジェクト」	横須賀市立衣笠小学校
<p>単元（題材）目標</p> <p>単元名 「スマイルプロジェクト ～人も自然とハッピーに～」 小単元名 「ろう学校の子どもたちと友だちになろう」 小単元目標 「ろう学校の子どもたちとの関わりを通して、ろう学校の子どもたちに親しみを感じる」</p> <p>（１）実施時期 12月中旬</p> <p>（２）対象（学年等・人数） 4学年 64名</p> <p>（３）指導者（教諭・外部講師等） 本校教諭：学級担任</p> <p>（４）実施内容 ろう学校とは、何度も交流することが難しいため、1度の交流で仲良くなるための方法として、一緒にできるゲームなどを考えていた。当日は、グループごとに分かれて交流を行った。すごろくや人間ボーリングなど用意してきた遊びを通して交流を深めた。ろう学校の子どもたちからは、手話での歌を覚えてもらうことが出来、子どもたちも喜んでいました。一つ一つの動きの意味をていねいに教わったほか、ろう学校の子どもたちの手話から、手話にも個性が出るのが分かるなど、お互いに学ぶことが多岐にわたりました。</p> <p>（５）成果 子どもの振り返りから 「当日の開会式では、うまく聴き取れなかった言葉が、交流を通じた後の閉会式では聴き取れるようになって驚いた。聴き取ろうという気持ちが必要。」 「いろいろ難しいと思うけど、僕たちと同じ学校と一緒に勉強したいと思いました。」</p> <p>（６）その他 学年末にはお礼のDVDが送られてくるなどして最後までつながりを感じることができた交流となりました。</p>	

総合的な学習の時間 「福祉について考えよう」	小田原市立芦子小学校
<p>単元（題材）目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉についての関心を高め、活動していこうという気持ちをもつ。 ・自分なりに他の人のことを考え、課題を設定することができる。 ・計画にしたがって、活動を進めることができる。 ・他機関との連絡を取ることで、コミュニケーションの力を伸ばすことができる。 ・発表を考えてまとめを行うことで、表現する力を伸ばすことができる。 <p>（１）実施時期 ９月～３月</p> <p>（２）対象 ５年生 ４人</p> <p>（３）指導者 本校教諭：担任</p> <p>（４）実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習テーマを「福祉」として、グループまたは個人で課題を設定し、活動計画を立てる。 ・手話グループで計画に沿って活動する。 ・手話について調べたことをまとめ、保護者や友だちに発表する。 ・活動の振り返りを行う。 <p>（５）成果</p> <p>・手話グループでは、図書室で手話についての本を使って調べ学習に主体的に取り組めた。手話について学んだことは、学習発表会で発表した。発表会では、覚えた手話を使って、友だちや保護者に向けてあいさつをしたり、自己紹介をしたりした。さらに、手話で宿泊学習や運動会での組立体操などの思い出を披露した。発表を聞いた人から手話による挨拶や自己紹介の仕方を質問されたり教えたりすることで手話への関心が広がった。また、手話でも豊かなコミュニケーションが図れることを共感できた。</p>	

単元（題材）目標

- ・手話を一つの言語活動として、子どもの時から慣れ親しむとともに、さまざまな人とのコミュニケーションをとる方法とする。

（１）実施時期

10月

（２）対象（学年等・人数）

個別級 全児童 11人

6年3組 全児童 23人

（３）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：個別級担任(4人)

（４）実施内容

「世界中の子どもたちが」の歌に手話をつけて歌い、10月の朝会に全校児童の前で発表した。6年3組とは教室が隣同士で、給食を一緒に食べるなど、普段から交流が多かった。さらにつながりを深めようと協力を求め、一緒に実施することとなった。

個別級の児童は少しずつ練習し、先に覚えることができた。10月になってから、6年生に、給食の時間などを利用して今度は教えるという形で進めた。一生懸命に教える個別級の子どもたちの姿にひき込まれるように6年生も覚えていった。

発表当日は最初に個別級の子どもたちだけが、歌と手話で表現した。しっかりと声をだし、一つ一つの手話を丁寧に大きな動作で披露した。2回目に、6年生が加わり、さらに、声量も増していった。お互いが手話を見合いながら、息を合わせていくと温かい一体感をつくりだした。

（５）成果

6年生と1つの目標に向かって、交流することができ、大きな達成感を味わうことができた。お互いの良い思い出ともなった。

個別級児童にとっては手話で歌えることが、大きな喜びの一つとなり、自信を深めることにもつながった。

（６）その他

本校児童には、日本語も外国語も手話もどれも「同じ言葉」で、コミュニケーションを深めるための一つの手段であると気付いてほしかった。

**総合的な学習の時間
「手話コーラス」**

横浜市立芹が谷中学校

単元目標

- ・全校生徒が手話を使って校歌を歌うことを通して、手話がコミュニケーションの手段であることを理解し、さまざまな立場の人たちと共に行動できるようにする。

(1) 実施時期

10月下旬

(2) 対象（学年等・人数）

全学年 366名

(3) 指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：生徒会担当

(4) 実施内容

- ・生徒会の伝統行事として文化祭で校歌を手話で歌っている。
- ・生徒会の生徒が中心になり、TV放送（だいたい4日間くらい）を通して手話を各クラスで練習し、文化祭当日全校生徒で校歌（手話コーラス）を歌う。

(5) 成果

- ・手話の一つ一つの言葉が表す動作に興味を持って取り組んでいた。

**総合的な学習の時間
(手話講座)**

茅ヶ崎市立松浪中学校

単元(題材) 目標

- ・手話講座を通して、聴覚障害を理解し、さまざまな生徒と行動する。

(1) 実施時期

11月中旬

(2) 対象(学年等・人数)

全学年(1～3年) 約20名

(3) 指導者(教諭・外部講師等)

外部講師:松浪地域在住の方

(4) 実施内容

- ・50音を手話で表現することを学習した後、自分の氏名を手話で表現してみる。
- ・簡単な日常表現を習い発表する。
「あなたの名前は？」
「私の名前は〇〇です。」(50音表で学んだもの)
- ・簡単な単語を習う。
「海」「川」「山」「太陽」「月」など
会話の中で同じ動きでも、水の流れ→川、空気の流れ→風
などといった読み解き方も習う。
- ・歌「ふるさと」を手話で表現しながら歌う。
これらの内容を1時間半程度で学習する。

(5) 成果

- ・これまでに体験したことのない生徒にとっては、手話の意味(大切さ)を理解することができたようである。また、2年連続して参加した生徒もいるので、そういった生徒については、手話に興味をもって学ぼうとする気持ちが芽生えていたようである。

(6) その他

- ・総合的な学習の時間の2時間扱いで地域ふれあい講座を実施した。

**総合的な学習の時間
(福祉体験)**

二宮町立二宮中学校

単元(題材) 目標

- ・映像と歌とパフォーマンスそして手話ダンスレクチャーの体験を通じて、共に生きることの大切さや福祉に対する理解と関心を高める。

(1) 実施時期

9月下旬

(2) 対象(学年等・人数)

全学年 447名

(3) 指導者(教諭・外部講師等)

外部講師：HANDSIGN (ハンドサイン：手話を取り入れた日本の男性パフォーマンスアート集団、ダンスグループ。)

(4) 実施内容

- ・福祉講演会
演題：「エンターテインメントの角度から手話・ダンスを身近なものに」
- ・講演会の中盤で「星物語ソング」の曲に合わせて手話ダンスのレクチャーを全校生徒で受けた。

(5) 成果

- ・HANDSIGNは、2005年に日本の神奈川県で結成されたブレイクダンスに手話を取り入れたまったく新しいジャンルのパフォーマンス集団である。子ども達は、見よう見まねで彼らのダンスを真似するうちに、自然と手話を身につけていった。また、彼らが海外でダンス支援活動を行った時の映像を見ることにより、たとえ言葉が通じなくともダンスが心をつなぐことも学んだ。さらに、子ども達にとって興味対象であるダンスと教育的視点から見た手話を融合した本講演会での体験を通じて、子ども達は共に生きることの大切さや相手を思いやることの大切さについても、確かな学びへと高めていった。

**総合的な学習の時間
(福祉体験)**

相模原市立緑が丘中学校

単元(題材)目標

- ・互いの幸せを求め、認め合い支え合って生きていく態度を育てる。
- ・体験的・啓発的な活動を通して、福祉活動を理解する心を育てるとともに、さまざまな子どもと協力できるようにする。

(1) 実施時期

6月下旬

(2) 対象(学年等・人数)

1学年・124名

(3) 指導者(教諭・外部講師等)

外部講師：聴覚障害者1名
手話通訳者1名
中途失聴者1名
サークルもみじ3名

(4) 実施内容

- ・体育館にて、4クラス合同で実施
- ・手話の意味や読み取り方などについて、講師の話を聞く
- ・簡単な手話を体験する
- ・アナウンスされた文章を聞き取り、要約して記録する体験をする
(いつ、どこで、だれがなど・・・)

(5) 成果

- ・手話で簡単な挨拶ができるようになった。
- ・手話の大切さを理解し、少しでも自分たちのできることはないか考えるきっかけになった。

(6) その他

- ・福祉体験活動として、視覚障害者にかかわる体験活動や車いす体験等も同会場で実施

総合的な学習の時間 (福祉体験)	横須賀市立野比中学校
<p>単元（題材）目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講話や体験を通して、障害のある方々の立場になって、物事を考え、正しい支援の仕方について学ぶ。 ・みんなが幸せになる福祉について「今、私たちができること」を考える機会とする。 <p>(1) 実施時期 11月下旬</p> <p>(2) 対象（学年等・人数） 1学年 138名</p> <p>(3) 指導者（教諭・外部講師等） 外部講師：横須賀市聴覚障害者協会より2名、横須賀手話勉強会より2名</p> <p>(4) 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障害がある方の話を聞く 手話の必要性（「書くことでは表せないこと」など）について、手話を交えての講話がなされた。 ・手話体験 簡単な挨拶などを教わりながら、体験した。 <p>(5) 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障害がある方の実際を知ることができた。 ・実際の話を書くことで、今の自分たちのできることを考えることができた。 ・手話の難しさと、手話を必要としている人の実態を知ることができた。 ・改めて、相手の立場に立って考えることの大切さを知った。 <p>(6) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周りの人を思いやることのできる仲間作りについて考えられる取り組みを考えていきたい。 	

**総合的な学習の時間
(福祉体験)**

座間市立相模中学校

単元(題材) 目標

「共に生きる」～福祉の取り組みを通して～

- ・よりよい生活を共に築いていくために、助け合う心や実践力を養う。

(1) 実施時期

11月下旬

(2) 対象(学年等・人数)

1学年 23人

(3) 指導者(教諭・外部講師等)

外部講師：座間市社会福祉協議会 ボランティアセンター 星の会の方々

(4) 実施内容

- ・外見ではわからない聞こえない障害についての講話。
聴覚障害がある方との会話方法の紹介(コミュニケーション手段)。
①身振り②口話③空書④筆談⑤指文字⑥手話。
その中で⑥を学び実演。
(1)挨拶 (2)自己紹介(生徒一人一人が自分の名前を実演)
(3)会話 (4)歌 『世界に一つだけの花』

(5) 成果

- ・聞こえている人は、無意識に音を聞いて判断し、行動しているが、聴覚障害がある方はそれができないため、不便であることを理解できた。
- ・コミュニケーション手段の種類を知り、その中の一つが手話であることを知り、手話の大切さと困っている人がいたら、何かしらお役に立ちたいという前向きな感想が寄せられた。

**総合的な学習の時間
(福祉体験)**

川崎市立柞形中学校

単元(題材) 目標

- ・福祉に関する基礎学習を行い、福祉やボランティアにおける意識を高める。
- ・福祉に関する様々な課題に関心を持ち、自分にできることを意欲的に実践しようとする態度を養う。
- ・聴覚障害者への理解を深め、相手を思いやる気持ち(他者理解)や今後の自らの生き方(共に生きる)に生かす。

(1) 実施時期

7月7日 5・6校時(13:10~15:00)

(2) 対象(学年等・人数)

2学年 155名

(3) 指導者(教諭・外部講師等)

外部講師:手話サークル山びこ(8名:各クラス2名)

(4) 実施内容

- ・耳の不自由な方の生活を学び、コミュニケーションの手段のひとつである手話について体験的学習をする。
- ・手話サークル山びこの方々のお話(日常生活で困ることや工夫・サポートのあり方など)
- ・手話講習(生徒20名程の少人数にて実施)(自己紹介や挨拶・日常よく使われる手話など)
- ・手話を使ってのコミュニケーション(講師の先生や生徒同士の手話実践)

(5) 成果

- ・手話の動きに意味づけ(何をイメージして)があることを理解した。
- ・日頃色々な工夫をして生活をしていることや、私たちが日常的に気にかけてあげられることなど考えられた。

(6) その他

- ・総合的な学習において、各学年の福祉教育を今後も充実推進していきたい。
(ボランティア活動・高齢者介助体験・保育ふれあい体験など)

**総合的な学習の時間
(福祉体験)**

藤沢市立湘洋中学校

単元(題材) 目標

- ・『手話』を通してコミュニケーションの重要性や「聞こえない存在」について気づかせ、障害を『自分のこと』としてとらえさせ、自分にできることを考えさせる。

(1) 実施時期

6月

(2) 対象(学年等・人数)

2学年 79名

(3) 指導者(教諭・外部講師等)

本校教諭 外部講師: Aさん・Bさん(通訳)

(4) 実施内容

- ・『聞こえない』障害について 「聴覚障害者とは」
- ・『聞こえない』ことによる体験談
- ・手話以外のコミュニケーション方法を考える
- ・口話・読話『伝える体験』
- ・手話を覚える基本的あいさつ
- ・手話ソング『小さな世界』手話を使って歌う

(5) 成果

- ・生徒は、講師から自分の名前を手話で表す方法を教わり、自己紹介が出来るようになった。また、聴覚障害者の苦悩を知り、自分に出来ることは何かを考えるようになった。

〈生徒感想 一部抜粋〉

聴覚障害者は見た目では分かりませんが、でも今回の体験を通し、「どう声をかけたらいいか」ではなく「どう接して助けてあげればいいのか」と考えるようになりました。自分にできることは何か、人のために何かしてあげたいと思いました。今、自分が当たり前に行っていることは誰かにとっては当たり前ではないかもしれない。今、当たり前に行っていることに感謝し、自分が出来そうなことから、助けてあげたいと思いました。

**総合的な学習の時間
(福祉体験)**

山北町立山北中学校

学習目標

- ・ボランティアの方々から障害者の方々との接するときの心構えと、車椅子の扱い方や手話、点字などの技能を学ぶ。
- ・進んでボランティア活動に参加し、社会に貢献しようとする態度を養う。

(1) 実施時期

10月下旬

(2) 対象 (学年等・人数)

3学年 106名

(3) 指導者 (教諭・外部講師等)

外部講師：町社会福祉協議会から派遣されたボランティア

(4) 実施内容

- ・学校行事として、第3学年全員を対象に「福祉体験学習」を行った。「車いすの扱い」「手話」「点字の読み書き」の3つの内容を下記の表のように学級ごとに分かれて体験した。
- ・手話については、町の手話サークル「虹」のメンバーに指導していただいた。
- ・手話は音声を使わない「視覚言語」であること、また、書くことのできない「空間文字」であること等の説明を聞き、そのあと実際に手話を使ってみる経験をした。

	13:25~13:45	13:50~14:10	14:15~14:35
A組	車いすの扱い	手話	点字の読み書き
B組	点字の読み書き	車いすの扱い	手話
C組	手話	点字の読み書き	車いすの扱い

(5) 成果

- ・どの体験も、生徒は興味深く学び、積極的に講師に質問するなど、意欲的に取り組んでいた。
- ・手話について、生徒からは「声を出さずに通じ合えるところが興味深い」、「必要な時に使えるようになりたい」などの感想が出され、体験教室の後、自分の名前を手話で話したり、手話で挨拶をしたりする様子が見られた。

特別活動**「手話で歌おう、心を込めて」****大和市立緑野小学校****単元（題材）目標**

- ・ 全校児童が、手話に親しむ。
- ・ 手話が言語であることを意識し、心を込めて手話で歌う。

（１）実施時期

- ・ 11月上旬「感謝の集い（登下校ボランティアへ感謝する会）」
- ・ 7月上旬、11月下旬、2月中旬「音楽朝会」
- ・ 3月上旬・中旬「さよなら6年生」「お別れ式」

（２）対象（学年等・人数）

全児童 750名

（３）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：教務

（４）実施内容

- ・ 年間3回の音楽朝会では、3曲（虹・世界がひとつになるまで、きみとぼくのラララ）とも、すべて手話をしながら歌った。
- ・ 音楽朝会以外の式や行事で、音楽朝会で練習した歌に取り組んだ。

（５）成果

- ・ 音楽委員会の児童が、全校児童の前で手話を披露するため、特に熱心に取り組んだ。朝会の時には指導した総括教諭と共に舞台上で手話を行った。
- ・ 指導した総括教諭は全クラスへ指導に行ったので、理解が深まり、朝会の時には大変上手にできた。
- ・ 特に4年生では国語の教材に取り組むときに、手話の動きを覚えていたので、先行経験として役立った。また、総合学習で福祉をテーマに取り組み、講師として聴覚障害のある方をお呼びした時も、手話の歌に取り組んだ経験が役立った。
- ・ はっきりと口を開けて歌うと同時に、柔らかな表情と優しい動きで手話をするよう指導し、手話は言語であることを意識させた。
- ・ 全校児童が1年間通して取り組んだことで、手話に慣れ親しむことができた。

特別活動**「人権週間の取組」**

横浜市立洋光台第一小学校

単元目標

- ・手話ダンスを覚えることにより、手話の基礎的なことを学び、手話がコミュニケーションの手段の一つであることを知る。
- ・手話ダンスを学び体験することで、それぞれの違いを認め合い、心を寄せて、ともに生きていこうとする心情を育て、学級生活に生かす。

(1) 実施時期

11月中旬

(2) 対象（学年等・人数）

1・2学年 170名

(3) 指導者（教諭・外部講師等）

外部講師：手話ダンスサークル「さくらの会」（3名）

(4) 実施内容

- ・歌詞を手話で表し、曲に合わせて手話ダンスを体験する。
曲目「世界中のこどもたちが」「さんぽ」

(5) 成果

児童感想から

- ・手話が、大切なコミュニケーションの手段だということが分かった。
- ・手話を使って、会話ができることが分かった。
- ・いろんな手話ができ、楽しかった。
- ・歌に合わせて手話ができ、うれしかった。

(6) その他

人権週間は、まだ先だったが、学校を開く週間に保護者にも参観してもらえるように、この時期に実施した。

特別活動**「福祉実践教室 手話学習」**

横浜市立市場中学校

単元目標

○人間一人ひとりが、かけがえのない存在であることを理解し、学級の活動に生かす。

○様々な障害について理解を深め、お互いを尊重できる思いやりの心を育てる。

(1) 実施時期

10月下旬

(2) 対象（学年等・人数）

2学年 209名

(3) 指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：2年所属 11名

外部講師：鶴見区ボランティア ワルツ 18名

地域ケアプラザ職員数名

(4) 実施内容

福祉実践①

講演会：「聴覚障がいについて」（学年全体）

- ・聴覚障害の方の実生活について、4名の方から話を聞く。（手話通訳あり）

福祉実践②

手話体験：各学級で手話実践

- ・各学級に講師1名（聴覚障がいの方）、ボランティア2名（ワルツの方）
- ・簡単な会話（あいさつ、自分の名前等）の実践

(5) 成果

- ・手話に興味を持ち、学習後も自分の名前を手話で伝えられるようになった。
- ・障害のある方に対して、街なかでの声かけやあいさつができるようになった。

**特別活動
(福祉体験)**

平塚市立太洋中学校

単元(題材) 目標

・海の近くに立地している本校の屋上は、大地震に伴う大津波警報が発令された場合の地域住民の避難場所となっている。避難者の中には高齢者や障がいのある方などもいる可能性が高い。そのため本校では、さまざまな立場の人のことを考え行動できるように、全校生徒を対象に要援護者の支援を学ぶ「災害対応講習会」を毎年開催している。そのステップとして、毎年2年生対象に実施する福祉体験学習のプログラムの一つとして手話体験学習を行っている。

(1) 実施時期

3年生卒業後の年度末午前授業の時期

(2) 対象(学年等・人数)

2学年生徒のうち手話コースを希望したもの

(3) 指導者(教諭・外部講師等)

外部講師：平塚市社会福祉協議会ボランティアセンターに手配していただき、平塚市聴覚障害者協会、平塚市手話通訳者連絡会などから派遣された講師(3～4名)が指導者となり、コース担当として生徒の掌握のための学年職員が1名つく。

(4) 実施内容

- | | |
|----------------|--------------|
| ・聴覚障がい者についての理解 | ・手話に関する基本的知識 |
| ・指文字による五十音の表し方 | ・手話による挨拶 |
| ・手話による自己紹介 | ・手話における拍手の仕方 |

(5) 成果

- ・コミュニケーションツールとしての手話体験を通して、聴覚障がい者に対する理解を深めることができた。
- ・要援護者に接する上での優しい心や思いやりの気持ちなど、望ましい態度を育てることができた。

**特別活動
(福祉体験)**

平塚市立太洋中学校

単元(題材) 目標

○校内の文化祭の際に、学年の発表として1年生が合唱を行った。太洋中は2年生で福祉体験学習を例年行っていることもあり、そのためのステップの一つとして1年生が手話を伴う歌唱を実施した。

(1) 実施時期

文化祭の時

1 学年は 6 時間練習、文化祭当日発表

2・3 学年は文化祭当日鑑賞

(2) 対象(学年等・人数)

1 学年 120 名が発表し、2・3 学年はそれを鑑賞した。

(3) 指導者(教諭・外部講師等)

本校教諭(手話の映像が入ったDVDをもとに該当学年職員が指導にあたった。)

(4) 実施内容

・「Believe(ビリーブ)」を、手話付きで斉唱した。

(5) 成果

・手話に対する興味関心を高めることができた。